

事業報告書

令和2年度

社会福祉法人備作恵济会若松園

事業報告

令和2年度 児童養護施設「若松園」

一、令和2年度 重点項目の実施報告

1、施設の小規模化及び家庭的養護の推進と大人との信頼関係の構築に努めました

- ①入所児童が暮らす生活単位について、これまでの「〇〇寮」から「〇〇の家」に呼称を変更し、そこで暮らす子どもと大人が家庭的な空間を意識しやすい取り組みを行いました。
- ②本園敷地内において「小規模グループケア（かえでの家）」を運営し、より家庭的な環境の中で、被虐待児童が他者との関係性を回復できるよう努めました。
同学区内において「分園型小規模グループケア（なでこの家）」を運営し、地域社会の中で家庭的な養育を実施することにより、児童の社会的自立が促進できるよう努めました。
同学区内において「地域小規模児童養護施設（けやきの家）」を運営し、地域社会の中で家庭的な養育を実施することにより、児童の社会的自立が促進できるよう努めました。
- ③今後さらなる養育の小規模化および地域分散化を進めるべく同学区内において新たな不動産（土地）を取得し、近年中の新規開設に向けた建築計画を鋭意進めました。
- ④入所児童に対しては担当制を敷き、主担当が副担当とペアを組み、連続性のある支援と信頼関係・愛着関係の形成に努めました。
- ⑤被虐待児など心理療法を必要とする児童に対し、常勤の心理士による心理療法を実施し、入所児童の心のケアに努めました。
- ⑥看護師を配置し、身体疾患を抱える児童等に対し、嘱託医等と連携を取りながら医療的ケアの向上に努めました。

2、「児童の最善の利益」に配慮した自立支援を行いました

- ①児童の個性を尊重し、部活動や習い事、行事への参加等自らの行為を主体的に選択することができる機会の保障に努めました。
- ②児童の生育歴や家庭背景、入所までの経過、児童の特性等、できる限りの情報を収集し、児童の理解に努めました。また、ケースカンファレンスを毎月開催し、入所児童の支援方針や児童の置かれている状況の適切な理解に努めました。
- ③それぞれの児童の意思と発達段階・発達課題に応じた「児童自立支援計画」を作成し、実践しました。
- ④心理教育プログラム「セカンドステップ」を実施し、入所児童が暴力に頼らず問題を解決するスキルを身につけることができるよう努めました。
- ⑤学区内に当園が所有している一軒家「なごみの家」を活用し、高校生等の高年齢児童に対する自立に向けた生活訓練や、担当職員と担当児童少数で宿泊できる体験を行いました。
- ⑥各ホームに設置してある「意見箱」に寄せられた入所児童からの意見に対し、一つひとつを真摯に受け止めて検証し、必要に応じた対応を行いました。
- ⑦園長およびホーム長等による入所児童との面接を実施し、入所児童の意見を汲み取りました。
- ⑧新型コロナウイルス感染症流行拡大をうけ「苦情解決委員会」を书面審議の方法で開催し、第三者委員を交え当園の一年間の苦情対応に対する報告と検証を行いました。

3、児童への学習支援を行いました

- ①就学年齢以上の児童には個人用の学習機を用意し、その他園内設備を活用し受験生等が学習に集中できる環境整備を行いました。
- ②児童の年齢や学年にあわせた学習時間を設定し、学習に対する習慣づけを行いました。
- ③社会人・学生ボランティアを活用し、個別対応を必要とする児童に対し学習支援を行いました。
- ④学習塾を活用し、学力・学習意欲の向上と自信につなげるよう配慮しました。
- ⑤企業の支援による通塾機会の保障（公文英語）や、ALT（外国語補助教師）による「英語クラブ」を園内において実施し、児童の英語力向上と外国語への興味付けを行いました。

4、各種行事と児童への余暇支援を行いました

- ①園全体で行う行事は開催規模の縮小や実施を見合わせ、新型コロナウイルス感染防止対策を厳にしたうえで実施可能と判断した園内レクリエーション等を行いました。
- ②キャンプ体験行事は実施を見合わせ、新型コロナウイルス感染防止対策を厳にしたうえで実施可能と判断した園内レクリエーション等を行いました。
- ③休日や余暇を利用し、園内での「バレーボールクラブ」を企画実施し、地域の「スポーツ少年団剣道部・サッカー部」においても意欲的に活動しました。
- ④新型コロナウイルス感染防止対策を厳にしたうえで、地域の感染状況を見ながら担当職員との個別外出などを通し、職員と児童とが楽しい時間を共有できる機会を設けるとともに、社会的自立に向けて多くの体験を積むことが出来るような行事を計画し実施しました。

5、家庭と施設との養育の協働に努めました

- ①児童の担当職員・家庭支援専門相談員等を中心に保護者との信頼関係の構築に努め、家庭と児童との関係構築に努めました。
- ②家庭と施設との養育の協働を目指し、児童の保護者等への学校行事や園内行事への参加を可能な限り促しました。
- ③家庭支援専門相談員を配置し、家族の再統合のための連絡調整を行いました。また、児童の担当職員・家庭支援専門相談員がそれぞれ連携しながら、保護者との信頼関係の構築に努め、実施可能なケースについては家庭訪問を行いました。
- ④児童の入所の際には、可能な限り当該児童の保護者の来園を促し、保護者と園の信頼関係の構築に努めました。
- ⑤新規入所児童に対しては、事前の施設見学や一時保護所での面会を実施するなどし、家庭支援専門相談員を中心に、入所児童の施設入所に対する不安を和らげる取り組みを実施しました。

6、職員の資質向上のための研修を行いました

- ①職員の資質向上のための園内自主研修会を開催しました。
- ②各団体が主催する研修会に職員を派遣し、援助技術の向上に取り組みました。
- ③「岡山県児童養護施設等協議会専門部会」に職員を派遣し各種研究事業を行いました。
- ④新型コロナウイルス感染症流行拡大を受け、施設機能強化推進費を活用した園内研修会の開催は見合わせました。

7、各関係機関との連携に努めました

- ①対応困難ケースについては個別対応職員・家庭支援専門相談員を中心としながら、各関係機関と連携し支援を行いました。必要な場合には各関係機関に呼び掛けを行いケースカンファレンスへの参加を依頼し、対応困難ケースについて様々な角度からの助言を頂き、的確な支援方針の決定がなされるよう努めました。
- ②幼稚園・小学校・中学校については定期的に連絡会を開催し、個別対応職員・家庭支援専門相談員・各担当職員を中心に学校と施設との連携を図りました。
- ③関係機関とのネットワーク会議（調整会議）に「個別対応職員」「家庭支援専門相談員」等を派遣し、関係機関との連携に努めました。
- ④児童精神科医等の医療機関を受診する際、必要がある場合には個別対応職員・心理士・看護師等も同行し、医療機関との連携を図りました。
- ⑤医療機関との関わりについては看護師を中心とし、嘱託医との連携を保ちながら実施しました。
- ⑥里親支援専門相談員を配置し、里親家庭との連携や施設実習の受け入れ等里親委託推進に向けた活動を行いました。

8、職員へのスーパーバイズ体制の確立に努めました

- ①主任職員を組織の中核に配置し、施設長を補佐しながら事業計画に基づいた各種業務の遂行と児童支援にあたる養育現場および各種専門職員等の統括に努めました。
- ②専門研修を修了した基幹的職員を配置し、「自立支援計画票」の作成・進行管理・対応困難ケースや児童の問題行動に対する職員へのスーパーバイズを行いました。
- ③小規模ケアリーダー職員を配置し、小規模ケアおよび地域小規模児童養護施設それぞれの単位内で生活する児童の生活指導・学習指導・家庭環境調整等のリーダー業務を行いました。
- ④職員朝礼及び夕礼等の引継ぎ時間を中心とした OJT を実施しました。

9、ボランティアの受け入れと新規開拓に努めました

- ①ボランティア受付担当者を中心に、入所児童の状況やニーズに応じた新規ボランティアの開拓・受け入れを行いました。
- ②学生サークルによる「学習ボランティア」を受け入れ、毎週1回程度、小学生を対象とした個別学習活動を行いました。
- ③「読み聞かせ」ボランティアを受け入れ、毎月1回程度、小学生以下の児童を対象に、絵本の読み聞かせ活動を行いました。
- ④ボランティア団体「ぐるーん」によるボランティアを受け入れ、日中保育児童への絵本の読み聞かせや手遊びを中心とした活動を行いました。
- ⑤「ストーリーテリング」ボランティアを受け入れ、毎月1回程度、小学生以下の児童を対象に集会室でのストーリーテリング活動を行いました。
- ⑥「少年サポートセンター」ボランティアを受け入れ、各学期に1回程度、児童への余暇支援活動を行いました。
- ⑦習字教室の先生による「習字ボランティア」を受け入れ、児童への習字・硬筆指導を行いました。
- ⑧理容師等による「散髪奉仕」ボランティアを受け入れ、隔月1回程度、児童への散髪奉仕活動を行いました。

10、施設の社会化（地域との交流等の開かれた施設づくり）に努めました

- ①広報誌「きらきら」の発行を行いました。
- ②ホームページの管理運営を行いました。
- ③「若松園まつり」は新型コロナウイルス感染症流行拡大により、開催を見合わせました。
- ④地域住民への施設設備（集会室等）の開放を行いました。
- ⑤富山学区スポーツ少年団（剣道部・サッカー部）活動に計3名の児童が参加しました。
- ⑥「富山地区青少年育成協議会」に理事として職員を派遣し、活動を行いました。
- ⑦「富山地区交通安全母の会」に職員を派遣し、活動を行いました。
- ⑧富山小学校のPTA 役員として職員を派遣し、活動を行いました。
- ⑨富山中学校のPTA 役員として職員を派遣し、活動を行いました。
- ⑩富山学区・本村町内会による地域防犯活動への積極的参加を行いました。
(こども見守り隊活動・夜間パトロール活動)
- ⑪町内行事への積極的参加を行い、町内住民との交流を図りました。
(町内盆踊り大会、町内秋祭り、町内清掃活動、富山学区民体育大会 等)

事業報告

令和2年度 児童家庭支援センター「どんぐり」

令和2年度 児童家庭支援センター「どんぐり」 事業報告

1、職員構成

センター長	岩道和恵
心理相談員	椎野風香
心理相談員	願念祥子
相談員（非常勤）	多々野沙樹

※令和3年3月31日現在

2、職員の就職・退職状況

1. 就職

令和2年4月 1日 相談員（非常勤） 多々野沙樹

2. 退職

令和3年3月31日 心理担当職員 願念 祥子
令和3年3月31日 相談員（非常勤） 多々野沙樹

3、実施事業内容

1. 相談支援に関わる事業

1) 地域・家庭からの相談に応じる事業

- ①24時間対応で電話・メール等での相談支援を実施した
- ②来所・訪問相談・手紙・メール等の援助支援を実施した
(これらの支援については、遊びや学習、家事手伝いなど様々な活動を取り入れた)
- ③来所や訪問による心理療法を実施した
- ④相談者のニーズに応じた支援方法を考え、解決に向けての支援を実施した
- ⑤相談内容によっては他機関に繋げた
- ⑥県外からの相談については、当該都道府県の児童家庭支援センターに相談を繋げた
- ⑦「子どもの食緊急プロジェクト」に参加し貧困家庭に必要な物品（食料品以外の物品を含む）を届け、家庭内で困っていることを聞き出し支援に結び付けた
- ⑧本体施設を退所する子どもの就労その他に関する支援を実施した
- ⑨本体施設を退所した子どもの継続支援を実施した
- ⑩妊婦に対する支援を実施した
- ⑪行政と家庭（保護者）との仲介役を担い、特に金銭面等困窮に至らないよう支援した
- ⑫発達障害、知的障害等の障害特性の様態について保護者、関係者（子どもが高年齢児の場合は子ども本人も含む）に聞き取りや行動観察を実施した後、センター職員がその家庭の文化を尊重しながら困り感に対する対応の仕方について助言等を実施した
- ⑬精神疾患のある保護者への支援を実施した

⑭特定妊婦の相談支援を実施

(生後1週間から関わりを継続している家庭においては親子の成長がみられている)

⑮学校、家庭内の構造化を助言した

⑯医療機関や児童相談所に同行し、医師等の話をさらに噛み砕いて親子に伝えた

⑰緊急対応時には、警察、児童相談所に連絡し、医療機関へ繋げた

⑱当センターを利用された方が同様に悩みを抱える別の方に「どんぐり」を紹介され、支援に繋がった

⑲ソーシャルスキルトレーニング、ペアレントトレーニングを実施した

2) 市町村の求めに応ずる事業

①市町村の求めに応じ、必要な援助を実施した

3) 岡山市または岡山市こども総合相談所（児童相談所）からの受託による指導

①令和3年度中の指導委託の受託に向けて、試行委託を4件実施した

②ショートステイについては本園と連携しながら受け入れに関与し、子どもの行動観察を実施した（記録あり）。センター内にてアセスメント後、行政に報告するとともに今後の支援の在り方等について必要に応じて関係機関やサービスに結び付けた（役割分担を行った）

③コロナ禍の為、ショートステイを利用することができず困っている家庭については行政と相談しながらデイサービス（1日預り）を実施した。これにより家庭内の疲弊を防止することができた。また、兄弟姉妹同時利用を希望された家庭について1歳児等については来所扱いで預かった。行動観察後、福祉サービスの利用に繋げる事ができた。

③直接保護者に対して子育ての悩みを傾聴し、保護者等の求めに応じた援助を実施した（家庭環境に応じた助言を実施）

④地域こども相談センターや保健センターと情報共有しながら支援を実施した

⑤児童相談所からの依頼で委託に至らないケースの支援を児童相談所と同時進行で実施した

4) 里親等への支援

①今年度は利用がなかった

5) 関係機関等との連携・連絡調整に関する報告（36件）

①岡山市要保護児童対策地域協議会に参加

②岡山市要保護児童対策地域協議会主催のケース会議に参加（助言）

③児童相談所、市（地こ相、保健センター等）、医療、福祉関係機関との会議に参加（役割分担、情報共有、必要に応じて助言）した

④地域こども相談センターとの連携

※家庭の状況（親子の心情等）を把握し役割分担をしながら支援を実施した

4、広報等に関する報告

1) 富山幼稚園、富山小学校、富山中学校へのリーフレット配布

2) 岡山市からの各種関係機関へのリーフレット配布

3) 社会福祉法人備作恵済会若松園の「広報紙」に掲載

4) 社会福祉法人備作恵済会若松園の「ホームページ」に掲載

5) 社会福祉法人備作恵済会若松園の「掲示板」への掲載

6) 社会福祉法人備作恵済会若松園の敷地入り口への「看板」設置

5、職員研修派遣状況（すべてオンラインでのリモート参加）

1. 第106回 岡山県自閉症児を育てる会 自閉症啓発セミナー
【2020年7月26日】
「1センチでも前へ！母として、当事者として」
参加職員名：岩道和恵 [センター長]
2. 日本家族心理学会 2020年度第1回研修会
【2020年8月30日】
参加職員名：椎野風香 [心理相談員]
3. 第107回 岡山県自閉症児を育てる会 自閉症啓発セミナー
【2020年9月26日】
参加職員名：椎野風香 [心理相談員]
4. 子どもの虹情報研修センター 2020年度「市区町村虐待対応指導研修」
【2020年12月24日】
参加職員名：岩道和恵 [センター長]
5. 令和2年度 岡山県障害児相談支援に関する研修会
【2021年2月26日、2021年3月2日】
参加職員名：椎野風香 [心理相談員]
6. 令和2年度 岡山県障害児相談支援に関する研修会
【2021年2月26日、2021年3月2日】
参加職員名：椎野風香 [心理相談員]
7. 第110回 岡山県自閉症児を育てる会 自閉症啓発セミナー
【2021年3月37日】
参加職員名：岩道和恵 [センター長]

6、その他の事業報告

- 1) 退所児童へのアフターケアの実施
- 2) 公民館等での養育相談や子育て講座の実施

※年間を通じて感じたこと、行ったこと

- 1) コロナ禍により研修がオンラインと新しく取り入れられたことで、業務を行う上で有効であると感じられた。
- 2) コロナ禍で在宅ワークの家庭からの相談では、メールによる相談が有効であった
- 3) 家庭訪問・来所については、消毒、喚起を徹底し感染予防に努めた

7、事業実績報告

(補足資料参照)